

官報

號外

昭和二十年二月六日

○第八十六回 衆議院議事速記第八號

昭和二十年二月五日(月曜日)

午後二時五十九分開議

議事日程 第七號

昭和二十年二月五日

午後一時開議

第一 臨時軍事特別法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一 議會ノ續(委員長報告)

第二 議會ノ續(貴族院送付)

第三 司法官試補及辯護士試補タル資格ノ特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

第一 議會ノ續(委員長報告)

○議長(岡田忠彦君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一、本日政府ヨリ提出セラレタル議案

左ノ如シ

昭和十八年度第一豫備金支出ノ件

昭和十八年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十八年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和十九年度第二豫備金支出ノ件

昭和十九年度特別會計第二豫備金支出ノ件

昭和十九年度特別會計豫備金外豫算外支出ノ件

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メニ掲載ス〕

一、議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

青年禁酒法制定ニ關スル建議案

提出者 高木 義人君 高橋壽太郎君

坂東幸太郎君 金子 定一君
杉山元治郎君 松山常次郎君
佐々井一晁君 木下 郁君
深澤 吉平君 黒澤 西藏君
江藤源九郎君 村松 久義君
食糧ノ綜合供出制度實施ニ關スル建議案

提出者 大石 齊治君 赤間 德壽君
卯尾田毅太郎君 中川 寛治君
未利用食糧資源活用擴大強化ニ關スル建議案

提出者 (以上二月二日提出)
警防團員ノ待遇改善ニ關スル建議案

提出者 清水留三郎君 泉 國三郎君
船田 中君 青木 精一君
長内 健榮君 松永 東君
植松 練磨君 蟠山 政道君
駒井 重次君 渡邊善十郎君
中等學校教職員待遇改善ニ關スル建議案

提出者 石坂 繁君 伊豆 富人君
深水 信雄君 中井 亮作君
林 重貴君 伊禮 肇君
曾木 重貴君 森田重次郎君
學童體位向上ニ關スル建議案

提出者 石坂 繁君 伊豆 富人君
深水 信雄君 中井 亮作君
林 重貴君 伊禮 肇君
曾木 重貴君 森田重次郎君
軍需産業戰士ノ榮養確保ニ關スル建議案

提出者 小野寺有一君 吉田定次郎君
信太儀右衛門君 (以上二月三日提出)

一、去三日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ
昭和二十年第一般會計歳出ノ財源ニ充ツル等ノ爲メノ公債發行ニ關スル法律案
金資金特別會計法外五法律中改正法律案

外資金庫法案
地方鐵道及軌道ニ於ケル納付金等ニ關スル法律案
鐵道抵當法中改正法律案
日本通運株式會社法中改正法律案
郵便法中改正法律案

一、議員ヨリ提出セラレタル緊急質問
左ノ如シ
必勝國內體制確立ニ關スル緊急質問

提出者 (以上二月二日提出)
一、議員ヨリ提出セラレタル質問主意書
左ノ如シ
日滿支必勝體制確立ニ關スル質問主意書

提出者 山崎 常吉君 楠美 省吾君
(以上二月三日提出)
一、去二日議長ニ於テ選定シタル委員

戰時森林資源造成法案(小山邦太郎君外百三十五名提出) 委員
青山 憲三君 石博 敬一君
宇田 耕一君 小田彦太郎君
大橋清太郎君 岡本馬太郎君
岡本傳之助君 加藤 弘造君
木下 信君 北 勝太郎君
北村又左衛門君 楠美 省吾君
四王天延孝君 南郷 武夫君
堀内 一雄君 松浦周太郎君
三善 信房君 村上 國吉君

戰時森林資源造成法案(小山邦太郎君外百三十五名提出) 委員
青山 憲三君 石博 敬一君
宇田 耕一君 小田彦太郎君
大橋清太郎君 岡本馬太郎君
岡本傳之助君 加藤 弘造君
木下 信君 北 勝太郎君
北村又左衛門君 楠美 省吾君
四王天延孝君 南郷 武夫君
堀内 一雄君 松浦周太郎君
三善 信房君 村上 國吉君

一、去二日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
戰時民事特別法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員
辭任仲西、三良君補關庄司一郎君
一、去三日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
戰時森林資源造成法案(小山邦太郎君外百三十五名提出) 委員
大橋清太郎君 岡本馬太郎君
理事 木下 信君

○議長(岡田忠彦君) 是ヨリ會議ヲ開キマス
○小泉純也君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出シマス、即チ此ノ際昭和十八年度第一豫備金支出ノ件、昭和十八年度特別會計第一豫備金支出ノ件、昭和十八年度特別會計豫備費支出ノ件、昭和十九年度特別會計第二豫備金支出ノ件、昭和十九年度特別會計豫備金支出ノ件、昭和十九年度特別會計豫備金外豫算外支出ノ件、此ノ六件ヲ一括議題トナシ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、昭和十八年度第一豫備金支出ノ件外五件、承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト致シマス、石渡大藏大臣

昭和十八年度第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和十九年度第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計豫備金外豫算外支出ノ件

〔承諾ヲ求ムル件〕
昭和十八年度第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和十九年度第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計豫備金外豫算外支出ノ件

〔承諾ヲ求ムル件〕
昭和十八年度第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和十九年度第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計豫備金外豫算外支出ノ件

〔承諾ヲ求ムル件〕
昭和十八年度第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和十九年度第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計豫備金外豫算外支出ノ件

〔承諾ヲ求ムル件〕
昭和十八年度第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和十九年度第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計豫備金外豫算外支出ノ件

〔承諾ヲ求ムル件〕
昭和十八年度第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和十八年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和十九年度第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計第二豫備金支出ノ件
昭和十九年度特別會計豫備金外豫算外支出ノ件

トナリマシタ昭和十八年度第一豫備金支出ノ件外事後承諾ヲ求ムル件五件ニ付テ大體ノ説明ヲ致シマス
昭和十八年度第一般會計第一豫備金ノ豫算額ハ八千萬圓デアリマシテ、内支出致シマシタ金額ハ七千九百九十九萬圓デアリマス、今其ノ重要ナル事項ヲ申述ベマスレバ、警察費連帶支辨金、軍需扶助費、諸拂戻金、義務教育費、國庫負擔金等デアリマス、次ニ昭和十八年度ニ於テ其ノ第一豫備金ヨリ豫算超過支出ヲ致シマシタ特別會計アリマス、又其ノ豫備費ヨリ豫算超過支出ヲ致シマシタモノハ、臺灣米穀移出管理、食糧管理、通信事業ノ三特別會計デアリマス、次ニ昭和十九年度第一般會計第二豫備金ノ豫算額ハ二億圓デアリマス、内昭和十九年四月十五日ヨリ同年十二月二十三日至ル間ニ於テ支出致シマシタ金額ハ七億四千五百五十餘萬圓デアリマシテ、其ノ重要ナル事項ハ、防空緊急施設設備費、石炭價格調整補助金、學童集團疎開補助費、食糧増産緊急設備費、船舶運賃費、損失補償金、鐵鋼特別増産對策費、國民勤勞援護事業補助、災害費等デアリマス、次ニ昭和十九年度ニ於テ其ノ第二豫備金ヲ以テ豫算外支出ヲ致シマシタ特別會計ハ、朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳、關東局、南洋廳、通信事業ノ六特別會計デアリマス、又豫備金外ニ於テ其ノ國庫剩餘金又ハ歳入金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲ致シマシタモノハ、臺灣總督府及ビ南洋廳ノ二特別會計デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御承諾アラソコトヲ希望致シマス

○議長(岡田忠彦君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付キ御諮ル致シマス
○小泉純也君 六件ヲ一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託シ、直チニ委員ヲ指名セラレンコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、委員ノ指名ハ書記官ヲシテ報告致サセマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、委員ノ指名ハ書記官ヲシテ報告致サセマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、委員ノ指名ハ書記官ヲシテ報告致サセマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、委員ノ指名ハ書記官ヲシテ報告致サセマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、委員ノ指名ハ書記官ヲシテ報告致サセマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、委員ノ指名ハ書記官ヲシテ報告致サセマス

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、委員ノ指名ハ書記官ヲシテ報告致サセマス

委員長 高橋貞之助
衆議院議長 岡田忠彥殿

高橋熊次郎君登壇」

委員會於五月二十九日下午召開會
議，選出委員長二不肖

理事ニ小笠原八十美君、恒松松葉二君、赤城宗儒君、愛野時一郎君、森部隆輔君ノ五名ガ當選セラレ、翌三十日ヨリ四日間ニ亙リ質疑ヲ續行シ、本日午後討論採決ニ入り、本案ハ可決スベキモノト決定致シマシタ

マ、農業諸團體の貯金ハ近年飛躍的ニ増加シテ、アメリカマデ、其ノ努力ヲ増強セラレテ、農林水産方面ノ金融ニ依リナキ期セシメマスル共ニ、國遺債ノ消化竝ニ國家目的タル事業方面ニマデ最高度ノ利用ヲナサシムルメ、更ニ一段ト活潑ナル機能ヲ發揮スルベカラント。大體三點ニ互フ

シムル心算ハシテ、ノデカ三點、ト改正ノ加ヘテラレ、ノデアリマス、即チ第一點ハ、藝ニ農業團體統合ノ際ニ除カレテ居ツ馬匹、農業保險、耕地整理、鹽業等ノ組合及ビ是等ノ聯合會等ガ、新タニ出資者トシテ認マラレルト云フ。コトナルノデアリマス、改正ノ第二點ハ、從來自己資金ニ依ル年賦ノ貸付ノ更支、ハ、出資金及ビ農具等ノ

券發行額ノ半額トナツテ居ルノヲ全額即チ倍額ニ擴大スルモノデアリマス、改正ノ第三點ハ、餘裕金ノ運用ニ關スルモノデアリマシテ、所屬團體以外ニ對スル短期貸付ノ範圍ヲ擴大致シマシテ、日本興業銀行、戰時金融公庫、其ノ他ノ金融機關ニ對シモ、定期積蓄ノ引受メニシテ、餘裕

金ノ貸付ヲモナスコトヲ得ルヤウニシテ、
シタノデアリマス、其ノ他若干ノ法政
ノ整理の改正ガアルデゴデゴアリマス
此ノ場合農業團體ノ預金ノ情勢ヲ簡
單ニ附加ヘテ申上ゲマスガ、年毎ニ倍
加ノ狀況デアリマス、十九年八月相
百二十億ノ英ポンドシテ居リマス、既
ニ於テ、町村農業會ノ貯金、貧民

圓、同ジク中央金庫ニ於テハ六十億ヲ

リマス、以上ガ本改正法律案ノ内容ト

ナルモノデアリマス
本委員會ハ御承知置キノ如ク、本議
會ニ於ケル農商省所管ニ係ル唯一ノ委
員會デアリマス所カラ、本議案ノ趣旨
ニ關聯シ、時局下食糧、鐵維其ノ他農
産品ノ生産量ノ増大ニ關シ、後述ノ如
ク、

濟船生兩陣、二隊ノ兵、殊多勢豪、意ノ斷レ、
ヲ建設ノ質、堅應、答ケ展開サレタ、シテ、
リマスガ、技ニ其ノ主ナルモノヲ御紹
告致シマス、其ノ一戰局態、倍急ヲ告
グシマシ、主頭食糧タル米、麥、及ビ重
類ノ調期ノ増産ノ要請ハ、飛行機等並
要兵器ト立シテ焦眉ノ急ニ迫ツト記
リ、特ニ茲類ノ大量ガ新シク更ニガツ

リン、シテ、振向燃料、自來水、
ノ一環トシテ、海向ケラレ、松根油確保
問題ト相俟ツテ、敵英米擊滅ニ邁進ス
ルノ必要ニ迫ラセテ、デアリヤ、併
シハガラ是等ノ増產計畫行上ノ障礙
ハ勢力、資材、肥料、農具等ノ窮乏
ニ基クコトハ、申サマデアリヤセ
ガ、最モ身近ニ感スル障礙ハ、現行農
業、ノ門各ガ一般知識、農具、農家ノ

品價格等ニ比シテ、餘リノモ低廉ニ放任
サレ、又各農産物ノ間ニ於テ其ノ價格
ガ均衡ヲ失シ、農家ノ生産意欲ヲ阻礙ス
ルコトガ甚ダシキアリナスルガ故ニ、
一日モ早ク之ニ再検討ヲ加ヘザルニ
テ、主要農産物ノ價格ヲ根本的ニ改訂スル
トキ、現行通關金、補給金等ノ價格ハ
之ヲ變シテ、準拠金ニ改定スルノ意アリ

制宗シテ、農民ノ忠誠心ト相俟ツト、
其ノ増産ニ依ル農產物資ノ迅速ナル戰力ヲ
ニ萬全ヲ期サケレバナラナイ歟。線
ヲ摘致シテ、熱烈貞劍ナラズ間ヲ繰リ
擲ダレタノデアリマス之ニ對シ破
府當局ヨリト趣旨ニ付テハ同感デ
キ、目下鋭意檢討ヲ加ヘ、重要點ノ高
キモノヨリ漸次具體化ヲ圖リタキ方針

ナル旨ノ答給ガアリマシタ
其ノ二ハ、農業用資材並ニ農家必需
品ノ配給ガ、農業團體ニ於テ一元の
行ハレシメテ結果、農家ハ多クノ努力
ト時間トヲ費シマシテ、遠隔ノ配給所
ヨリ購入シナケレバナナイ現狀デマ
リマス、而シテ今ヤ其ノ大部分ハ米穀
ノ他ノ現物ヲ提供スルニアラズン

情ニアルノデアリマス、故ニ農家ハ世
日米ノ外ニ、ソレ等ノ必需品ノ購入

ニ充ツル爲メ、米ヤ其ノ他ノ農產物資

ヲ保留セバナラヌト云フ狀況デアリ
マス、仍テ速カニ其ノ配給ハ農業團體
ニ一元的二行フヤウニ改メ、是等ノ弊
害ヲ一掃セバナラヌト思フ、政府當局
ノ所見如何トノ質問ニ對シ、政府當局
ヨリ、事實ハ能ク解釋シタノデ、十分

檢討ノ上之ニ善處シタイトノ答辯ガアリマシタ

其ノ三八、中央農業會ト全國農業經濟會ヲ統合シ、一ツノ中央農業團體ヲ構成シ、系統農業團體ノ整備強化ヲ圖リ、以テ指導ノ一元の統制ヲナス、農業團體ヲシテ眞ニ生産責任團體タルヲムルヲ契機ト、更勝トス、即チ現在地

方農業團體ハ概ニ統合シテ一體トナツ
テ居ルニ拘ラズ、趣旨ニ副ハ多頭組
ミナラズ、中央ノ指導ハ二途ニ岐レ、
地方農業會ノ事業遂行上ニ著シキ障礙
ヲ來シ、又農産物ノ増産ヲ導ト集荷場
給付需品ノ供給等ノ經濟事業ト分離
スルガ如キハ、増産目的ノ完露ヲ期ス

ルコトガ出来ヌ、是ニ於テ中央兩國團
ニ統合ハ、一日モ遷延スルコトヲ許サ
ザル所デアルトノ質問ニ對シ、政府答
局ヨリ御趣旨及ビ其ノ間ノ事情ハ十分
諒承シテ居ルカラ、速カニ之ニ對シテ
善處シタメトノ答辯ガアリマシタ
ル也

行シ得ルニミナラズ、現ニ其ノ大部分公同ニテ
ハ農業團體代行シテ居ルノデアリ
シテ、是等該會社ノ存在ハ徒ラニ無用
複雜ナル手數ヲ重ネ、其ノ間少カラマ
農家ノ負擔ヲ増加シ、又供出価格ト曠
シキ支障ヲ來シシ、アルノ現状ニ對
シテ、速カニ是等ヲ廢止シ、其ノ顯

務ノ一切ヲ農業團體ニ移管スベキモノ、ト認メルノデアリマス、特ニ糞工品ノ原料タル稻藁ハ、家畜ノ基本養料デアリ、又家畜ノ床敷デアリ、且ツ堆肥ノ原料トシテ缺ケベカラザルモノデアリマシテ、家畜並ニ此ノ給肥料ノ増産ヲ要トスル今日、此ノ方面ニ於ケル糞ニ需要ガ激増シテ參リマシタコト、糞

烈トカリ、勞力不足ト相俟チマシテ、
 下品ノ電需、民需ノ大増加ノ趨勢ニ

反シテ、日ニ減産ノ一路ヲ迫リツ、ア

ルノモ其ノ一因ハ此處ニアルノデアリス、是等需給ノ調整ハ二ニ生産指導ノ任ニアル農業團體ニアラザレバ克ク導シ能ハザル所、此ノ間ニ處シテ獨リ品練制會社ノ存在ハ、徒ラニ農業團體ノ相型摩察ヲ醸シ、且ツ取引ノ圓滑、

集荷ノ迅速ヲ阻礙致ス實情ニアルノデ
アリマスノデ、農村民カラ指彈サレツ
ツカルコトハ洵ニ遺憾千萬デ、政府ハ
速カニ農民大多數ノ要望ヲ容レベキ
デアルトノ質問ニ對シマシテ、政府當
局ヨリ事情ハ能ク分リマシタノデ、糧
重檢計ヲ加ヘ善處シタキ旨ノ答辯ニ接
シタノデアリ

其ノ五ハ米ノ還元配給ニ關スル問題
デアリマス、最近ニ於ケル歴代農商主
テノ本問題ニ對スルテ、一針說明ノ表
現ヲモテ、法ガ區々デアツテ、一ハ還
元ノヲ認メ、ト言ヒ、他ハ還元スル
ト言明メテ居ル、果シテ何レヲ信ジ
テ宜カ、一針ノ迷ヲ迷テ居ルガ、此
ノ際政府當局ノ農民ハ迷ツテ居ルガ、
此ノ際政府當局ノ農民ハ迷ツテ居ル
ノハツキリシテ方針ヲ承リタイトノ

問ニ對シ、岡齋大臣ハ從來カラ種々ハ意見ガアルガ、結局還元配給スルコト云フコトハ、農家ノ供出ガ強過ギタ。結果デアリ、換言スレバ農家ガ出シ過ギタ。ト云フコトカラ、自家用飯米ノ不足ヲ來シ、配給ヲ受シルコトヲ必要ト配給スモノデアル、併シ原則トシテ還元配給ハハシナイ方針デ、即チ食ツテ行カレナ

イト云フ所マデ供出サセルト云フコ
ハシナイイト云フノガ原則デアル
一部ニ於テ出セバ何トカシヤセ
ルト言ツテ、供出サセルト云フヤウ
コトノアツタコトモ聞イテ居ル、
ウ云フ所ニ問題ガアツタノデアル
シ政府ハ還元配給ヲ必要トスル
出ハサセナイイト云フ方針ヲ持
ツテ居ル

カラ、左様詠承テ願ヒタイトノ答辯ガ
其ノ六ハ、纖維（事情）年度ニ於ケル
衣料切替ニ關スル質問デアリマス、聲
絲業ハ從來ノ平和産業カラ軍需産業ニ
轉換サレ、其ノ前途ニソレ々タル曙光
ヲ、其ノ生産ハ年々減産ニ拘
ズ、其ノ生産ハ年々減産ニ拘

シ、又「スフ」人絹等ノ製造ニ缺クベカラザル石炭、苛性曹達等、資材ノ甚

ダシキ窮屈サハ纖維ニ大キナ異變ヲ齎

ラシ本年度ニ於ケル衣料切符ノ交付ハ、一般家庭ヲ其ノ對象カラ除外致シ、専ラ其ノ纖維製品ハ農業家ノ其ノ他ノ勞務者、學生報國隊等ノ作業衣及ビ消費率ノ多イ小兒用衣料、肌着等ヲ重點ノニ配給スルノ曰ムヲ得ザル

ニ至リハセヌカト考ヘツ、アル旨ノ言
明ガ外自作農創設ト土地分合問題、
其ノ外自作農創設ト土地分合問題、
農村勢力對策、農耕勞務ノ調整、軍除
式ニ依ル農兵隊組織制度ノ問題、農機
具資材簡易農具ノ問題、生鮮食料品
配給制度ノ改革、有畜農業ト飼料問題
未利用資源開發ト粉食ノ問題、山

林政第一 水産問題等、現下決戦段階ニ至リ、
ニ於ケル農産物資ノ難力化、決戦國民
生活ノ平穩化等ニ關シ、各委員ヨリ國民
熱の質問ガアリ、之ニ對シテ政府當局
ヨリ懇切ナル答辯ガアリマシタガ、而
サルニ委員會ノ空氣ハ、農村ハ決シテ
無理ナク、ト望シテ居ルモノデハシ
イ、先ヅ第一ニ生産ニ邪魔ニナル機械

ハ施設ハ、之ヲ悉ク取除イテ貰ヒ
イ、此ノ緊迫シタ時期ニ臨ンデ
ニ政府ハ斯カル分切ツタコトガ決行
サレナイノデアラウカト、農民ガ疑ヒ
ヲサシ、懷クニ至ツテ居リマス、故ニ昨
府ハ委員ニ於テ問題トナツタ諸案件
ハ急速ニ斷行シテ問題シイ、サモナク
バ政府當局ヤ一般指導者層ガ、如何ニ

聲ヲ大ニシテ、皇國ノ危急存亡ヲ叫ビ
 マシテモ、協力ノ空虛ニ化シ、農民
 ノ心カナル一ツト生産業ニ化シ、農
 ヲ求ムルコトハ到底望ミ得ナイノデ
 ハナイカト心配シテ居ル次第デアリ
 矣、眞ニ韓國興廢ノ關鍵ニ立ツ此
 際、政府ノ一矢勇猛ノヲ發揮サレテ、
 懸案ノ悉クヲ直ニ解決セザレテ、

テ刻下當面ノ緊迫セル要請ニ副ハレン
コトヲ望シテ居ルハ第論アリマス
斯クシテ委員會ハ討論ニ入り、愛
時一郎君ヨリ翼賛政治會ヲ代表シテ
案贊成ノ意ヲ表セラル、採決ノ結果本
案ハ可決スベキモノト決定致シタカ
デアリマス、以上(拍手)

○議長(岡田忠彦) 本案ノ第二讀會

デ増産ノ確信ガアルカ、斯ウ云フ層間
ガアツタノデゴザイマス、之ニ對シテ

リマス、又證券所有者ハ現今ノ如キ勞力供給ノ困難ナリニ於キマシテ、勞力需給ノ實情ニ應ジテ、適宜ノ時ニ造林作業ヲナシマシテ、命令ノ定ムル所ニ依リマシテ、農林中央金庫ヨリ額面ノ金額ヲ受クルカ、又ハ大東亞戰爭終了後ニ於キマシテ、政府ニ對シ證券ヲ呈示シテ、森林資源造成ニ必要ナル行爲ヲ求ムル場合ハ、政府ハ分收歩合ヲ定メマシテ、政府自ラ其ノ行爲ヲナスカ、或ハ公共團體ヲシテ、其ノ行爲ヲナサシムルコトニ依リマシテ、努力ノ調節ヲ圖リツ、造林事業ヲ完成セントスルノデアリマス、即チ本法案ノ目的タル所ハ、第一ハ戰時下必然ノ結果タル過伐、濫伐ニ依ル國土荒廢ヲ防止シ、將來ノ森林資源ノ造成ヲ圖ルコト、第二ハ造林費ノ半額ヲ納付スルコトニ依リマシテ、即チ森林收入ノ一部ヲ農林中央金庫ニ納入貯蓄セシメテ、將來ノ造林費ヲ確保シ、山ヨリ得タル收益ノ一部ハ山ニ返スノ精神ヲ實行セシムルト共ニ、貯蓄ニ依ツテ、餘剩購買力ヲ吸收スルコトヲ圖ルコト、第三ハ納付金額ノ倍額ノ證券ノ交付ニ依リマシテ、造林費用ノ半額ヲ補助スルコトトシテ、造林ノ獎勵ヲ圖ルト共ニ、造林努力ノ調節ヲ圖ラントスルノデアリマス。

次イデ質疑ニ入リマシテ、委員ト農商省、内務省ノ政府委員トノ間、適切ナル質問應答ガアリマシタ、其ノ詳細ハ速記録ヲ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、唯政府委員ノ答辯ノ中ニ於キマシテ、二點ヲ御紹介申上ゲテ置キタイト存ジマス、即チ最近ニ於ケル植樹ト伐木ノ不均衡ノ狀況如何トハ、三對シマシテハ、農商省政府委員ハ、昭和十四年ニハ八、八、八、面積ガ八萬三千町步、又同年ノ伐採面積ハ四十七萬町步デアリ、昭和十八年ニ於ケル所ノ人工造林面積ハ、十二萬三千町步、伐採面積ハ實ニ七十三萬町步ト相成ツテ居ルノデアリマス、云フ答辯ガアリマシタ、又最近ニ於ケル所ノ水害ノ被害額如何トノ問ニ對シマシテ、内務省政府委員ヨリ、昭和十五年ニ於ケル損害額ハ、一億四千一百萬圓、然ルニ漸次増加ヲ致シマシテ、昭和十八年ノ損害額ハ、七億五千七百萬圓ニ達シテ居ル

ト云フ答辯ガアリマシタ、如何ニ本法案ガ一日モ忽セニスベカラザルモノデアリカト云フコトニ付テ、委員ニ深キ感銘ヲ與ヘタルデアリマス。

斯クテ質疑ヲ終局シ、討論ニ入リマシテ、翼賛政治會ヲ代表シテ、松浦周太郎君ヨリ、本案ノ戰時下ニ於ケル必要ニ付キテ熱心ナル御意見ノ發表ガアリ、尙ホ修正ノ動議ヲ出サレタノデアリマス、其ノ修正ノ動議ノ文面ハ、御手許ニ配付シテゴザイマス、之ニ依ツテ御承知ヲ願ツテ、朗讀ヲ省略サセテ戴キタイト思ヒマス、次イデ採決ニ入リマシテ、全員一致松浦君提出ノ修正案ヲ可決致シマシタ、右御報告ヲ致シマス(拍手)。

○議長(岡田忠彦君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○小泉純也君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り、修正議決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 小泉君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

戰時森林資源造成法案 第二讀會(確定議)

○議長(岡田忠彦君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り確定致シマシタ(拍手)次會ノ議事日程ハ、公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後四時四十二分散會

衆議院議事速記録第七號中正誤

九九頁三段末行「依ツテナル」ハ「依ツテ結成セラレテ居リマシテ、地方ニ強力ナル」ノ誤植

印刷局